

Beliefs of Russian students concerning Kanji learning : Based on questionnaire research of students studying Japanese in Russian high education institutions

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/35769

ロシア人日本語学習者の漢字学習についてのピリーフ －ロシアの高等教育機関にて日本語を学んでいる 学生に対するアンケート調査を元に－

人間社会環境研究科 人間社会環境学専攻
ブシマキナ・アナスタシア

要旨

非漢字圏日本語学習者¹⁾にとって、漢字は学習上の負担が大きいということがよく指摘されている²⁾。筆者はロシア人日本語学習者（以下、学習者と略）にとっての効果的な漢字学習方法を構築することに強い関心を持ってきた。

効果的な漢字学習方法を考える際、ロシアの漢字教育の現状と学習者の漢字に対する意識の特徴を把握する必要があると思い、2010年9月から10月まで、ロシアの極東地域にある4つの大学にて、日本語専攻の学習者（計128名）を対象にアンケートを行い、漢字学習の難易度、適性、性質、動機と期待、学習者の自律性について、45項目に5段階評定で回答してもらった。調査結果から以下のような点が明らかになった。1) 学習者は、漢字の学習自体を難しいと感じている。2) 漢字は、非漢字圏より漢字圏の人のほうが習得しやすいという考え方が見られ、ロシア人は漢字学習が得意ではないと思っている。ただし、誰もが漢字が得意になれると思っており、そのために、記憶力と工夫をする能力が必要であるという考え方が強い。3) 漢字の上達が日本語力全体の上達に結びつくという考え方が強い。4) 漢字学習には反復練習が必要不可欠であり、時間がかかるという意識が見られた。5) 全体的に「漢字の読み書きが上手になりたい」という希望を持っている学習者が多いことが分かった。実用的な手段としての漢字学習について、「日本での日常生活の中で必要な日本語の看板やお知らせが読めるようになりたい」と「日本語の新聞や本が読めるようになりたい」という動機が多かったが、それ以外の目的に関して全体的にははっきりした傾向が見られなかった。6) 自習学習の必要性を意識していることが分かった。7) 漢字学習方法について学習者同士で相談することが評価されている一方、指導者の役割に関して、指導者の必要性を感じない、不成功の際の指導者には責任がない、効果的な学習方法などは学習者自身が決め、教師のアドバイスを絶対視しないという考え方が見られた。

以上のことから、ロシア人学習者の漢字学習への関心が高い一方で、その上達は学習者の努力にゆだねられると考えられている傾向が明らかになった。効果的な漢字学習方法を考える際、学習者側の努力だけに頼る方法ではなく、短時間だからこそ効率よく学習を継続できるような教材や学習方法を考えたい。

キーワード

ロシア人学習者、漢字学習、ピリーフ、アンケート調査

Beliefs of Russian students concerning Kanji learning
– Based on questionnaire research of students studying Japanese
in Russian high education institutions –

BUSHMAKINA Anastasia

Abstract

The author came to have a strong concern in an effective method of kanji-learning for Russian learners of Japanese language (*hereafter* referred to as *learners*).

The author believes that researching into effective methods of kanji-learning requires knowledge of present situation in kanji education in Russia and of student's consciousness towards kanji, so a questionnaire research has been conducted among students majoring in Japanese (128 responders in total) in 4 universities in Russian Far East region from September to October, 2010. The questionnaire consisted of 45 questions with 5-level evaluation answer possibility covering topics of kanji difficulty, aptitude, disposition, motivation, expectations and autonomy. The results showed that 1) learners feel that kanji learning is difficult; 2) there is a belief that kanji learning is easier for learners from kanji-countries than for learners from non-kanji countries; 3) there is a strong belief that mastering kanji helps mastering Japanese in general; 4) there is a belief that reviewing exercises are a must for kanji learning and that it requires time; 5) generally, there is a lot of learners who would like to "master kanji reading and writing". 6) learners are aware of necessity of self-study; 7) an effective method of learning should be decided upon by the learner, and thus an instructor's advice should not be regarded as an absolute priority.

From the results above it came clear that Russian learners have a profound concern about kanji learning, but there is an inclination to believe that the progress depends on the learner's own efforts. Regarding effective kanji learning methods, the author would like to consider learning materials and methods that would be effective particularly in the short time of the class, and methods that do not only rely on the learners' own efforts.

Keywords

Russian learners, kanji learning; beliefs; questionnaire research

I. はじめに

1.1 研究の動機

非漢字圏日本語学習者にとって、漢字は学習上の負担が大きいということがよく指摘されている。日本語教育では、この負担を軽減し、非漢字圏学習者が効率よく漢字を学ぶための研究や教材開発などが多くなされている。しかし、同じ非漢字圏出身の学習者でも、国や地域によって、受けてきた初等・中等教育の違いなどから、教師主導

型か学習者主導型の学習スタイルに慣れているか、丸暗記に慣れているか、自分で考えて学習方法を探すことに慣れているか、などの点で傾向の違いがあると思われる。そのため、漢字学習も含めて言語学習に対する考え方を把握し、それぞれの国の特徴に配慮した漢字学習方法を検討すべきだと考えた。

筆者は2000年から2006年までロシアの極東地域にある極東国立人文大学にて第一言語として日本

語を勉強していた。学習経験を振りかえると、漢字の学習は時間と労力が必要で、日本語学習全体を難しくする要因の一つであった。非漢字圏のための多種多様な漢字学習方法や教材が存在しているにもかかわらず、学習者の一人として、「漢字学習」と言えば困難かつ複雑なものであるという苦手意識が強かった。そのため、大学を卒業した後、日本語教師の一人として、非漢字圏学習者、特に筆者の出身国の学習者にとっての効果的な漢字学習方法を構築することに強い関心を持ってきた。そして、効果的な漢字学習方法を開発するには、ロシアの漢字教育の現状と学習者の漢字に対する考え方を把握する必要があると思い、漢字教育の実態調査³⁾と漢字学習に対するピリーフ調査を企画し、実施した。

1.2 先行研究

1.2.1 外国語教育におけるピリーフの定義

Tudor (1996) は、「言語学習についての考え方」を外国語教育で考慮すべき学習者の多様性の三つの要素の一つである「学習と教授に関する文化的伝統」(“culturally-based traditions of teaching and learning”)として提示している。この「考え方」は「ピリーフ」と名づけられ、川口・横溝(2005)では「学習者のそれぞれが、自分の国の文化・社会の中で《学習及び教授のあるべき姿》や《一番身近で心地よく感じる学習方法》などについて持っているイメージ」であると説明されている。本研究における「漢字学習に対するピリーフ」の「ピリーフ」は、この定義に従う。

1.2.2 ピリーフの調査方法

外国語教育の分野におけるピリーフの研究を大きく進展させたのは Horwitz (1985, 1987) であった。Horwitz (1985) は教師と学習者の言語学習についての考え方を調べるため、BALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) という調査票を開発し、それを最初に教師を対象に使用した。その後、Horwitz (1987) は、学習者向けのBALLIを完成させ、米国内の大学で英語を第二

言語として学習する学生に対してピリーフ調査を行った。それ以来、BALLIは外国語教育の研究において広く使われるようになり、言語学習に対するピリーフについての量的研究の多くはBALLIやその改訂版などを使用している。本調査研究でもロシア人学習者の漢字学習に対するピリーフを調べるためにアンケートを使用した。アンケート作成時にBALLIを参照した。なお、本調査で用いたアンケートの内容については、2.2で詳細を述べる。

1.2.3 非漢字圏学習者の漢字学習に関するピリーフの研究

漢字学習意識に対する調査は、主に国内と海外の二つに分けられる。

国内での学習者を対象として行った最近の調査として、石田 (1984)、豊田 (1995)、加納 (1997a, b)、新矢 (1998)、(池田2007)、(ブシマキナ 2013b) などがあげられる。

石田 (1984) の調査では、非漢字圏の学習者にとって、多様な読み方とともに書き方の難しさも問題点として上げられた。加納 (1997b) の調査では、外国人の学習者が漢字学習にあたって、一般的に「辞書で調べる」、「熟語や例文の形で繰り返し、手で書く・読む」などの比較的オーソドックスな方法を用いていることが明らかになった。学習の初期段階では多種多様な学習法を使っているが、漢字習得度が上がるにつれてそれらが収束されていく傾向も明らかになった。豊田の意識調査では、117名の非漢字圏学習者の中で、漢字は自学自習できるという回答が約半数を占めていた。自学自習できるという意識は漢字の学習レベルの上昇に応じて徐々に減っていくわけではなく、初級よりも中級の学習者の方が自学自習に対して不安を抱いており、適切なガイドラインの必要性を感じているようである。漢字学習の困難点に関する質問では、漢字の字形よりも読み方、読み方よりも記憶保持が難しいとする回答が得られた。非漢字圏の初級学習者における漢字学習意識や態度、および学習開始後一ヶ月後の変容について調

べた新矢 (1998) によると、漢字学習に関する意識は一般的に良好であり、プラス方向へ変化していることが示された。池田 (2007) は、漢字学習に成功した非漢字圏の学習者を対象にPAC (個人別態度構造) 分析、質問調査用紙、インタビューなどを用いて、漢字学習についてどのようなイメージを抱いているか分析している。その結果、学習者は漢字の絵画的な芸術性や創造性、規則性、または歴史とのつながりという点に興味を示しており、さらに学習者はその興味に関連した漢字学習ストラテジーを多く用いていると報告している。ブシマキナ (2013b) は、日本の大学で漢字の授業を受けている漢字圏日本語学習者と非漢字圏日本語学習者の漢字学習に対する意識の違いについて検討している。その結果、漢字圏、非漢字圏を問わず、日本語学習者は漢字学習には記憶力と反復練習が必要不可欠であり、努力すれば漢字が得意になれるという考え方を持っている。また、漢字圏、非漢字圏を問わず、漢字学習が日本語学習全体に欠かせないものであるため、漢字の読み書きが得意になりたいという意識も見られた。

海外で日本語を学んでいる非漢字圏学習者の漢字学習ピリーフを把握するための研究については、地域別に見ていく。

アジア諸国での日本語教育の歴史は長く、日本語学習者の数が多い東南アジアの国では、スリランカ (ガヤトゥリ2006)、フィリピン (Ventura 2007)、インドネシア (リドワン2011) などでの漢字学習のピリーフを調査した研究がある⁴⁾。

ガヤトゥリ (2006) はスリランカの学習者にみられる全体的な傾向について分析している。分析からは、スリランカの学習者は一般的に漢字学習に対して楽観的な態度を持ち、漢字を学習するのは面白いと認識しているが、自立的な学習意識が欠けていることを報告している。

Ventura (2007) はフィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習及び漢字指導についてのピリーフを比較した。その結果、フィリピン人日本語教師はフィリピン人学習者に漢字学習への適性がないと考えている一方で、学習者自身は漢字の有効

性を重視しており、漢字が得意になれるという考え方であることが明らかになった。

リドワン (2011) はインドネシア人初級日本語学習者の漢字学習に対する意識を調べたアンケート調査の結果を報告している。その結果、インドネシア人学習者は漢字の上達が日本語力全体に関係すると思っているため、漢字学習に興味を持っていることが分かった。

一方、日本語教育の歴史それほど長くない中近東やアフリカの国々の学習者の特性を調べた研究は非常に少ない。

米国やオーストラリア、英語圏の日本語学習者の漢字学習ピリーフ研究には、大北 (1995, 1998) やMori et al. (2007) などがある。

大北 (1995, 1998) は、漢字学習ストラテジーと学習信念を調べる目的で行ったこれらの調査では、「書写」など漢字の図形を覚えるストラテジーの方が、音を覚えるストラテジーより頻繁に使われていることが明らかになった。大部分の学生は部首が漢字学習に有効であると考えており、日本語の文字の早期導入に賛成している。また、学習者の「漢字の学習度合いを自己評価する」、「間違いを探し見直す」といったストラテジーは漢字学習成果との相関を示し、学習者が自らの学習法または問題解決方法について考察することが重要であることが確認された。

Mori et al. (2007) は、中級から上級に入る前の日本語学習者の漢字ストラテジー、漢字に対する印象、漢字力の関係を調べた研究結果の一つとして、個々の漢字には、意味、音、字形、筆順、内部構成、品詞、文脈での適切性など、いくつもの情報があり、これらの知識は漢字との接触を繰り返す中で徐々に発達するものであるとしている。

一方、ヨーロッパの国々の学習者の漢字学習ピリーフに着目した研究はそれほど多くないが、例えば、柳田 (2011) はフランス人学習者の漢字学習内容の難易度や学習方法についてのピリーフを調べた。柳田 (2011) によると、フランス人学習者は、日本語力のレベルを問わず、漢字学習にお

いては漢字の読みが最も難しいと感じている。また、日本語力のレベルが上がるごとに導入漢字や語彙の数が多く、より複雑になり、記憶保持が問題になるため、学習が難しいとされる漢字の特徴は、単漢字から漢字語彙または漢字の意味へと変動する。

以上の研究は、非漢字圏の学習者を対象とした主要な意識調査である。それぞれの国のピリーフ調査の結果をみると、同じ非漢字圏でも、地域差や文化の違いによる特徴があり、今後の漢字学習指導や教材開発の際にピリーフという学習者の特性に配慮すべきである。なお、ロシアにおける漢字学習ピリーフの研究に関しては、現時点では筆者の研究以外には存在しない。

1.3 本調査研究の位置づけと目的

本調査研究はアンケートを用いて、量的データを分析することで学習者のピリーフの特性を把握することを目的とする。具体的には、漢字学習についてのピリーフに関して以下の4つを明らかにしたい。

- 1) 日本語学習全体の中の漢字学習の位置づけ、漢字学習の重要性についての考え方
- 2) 漢字学習の目的と期待、学習者のニーズ
- 3) 漢字授業、漢字の指導、漢字学習の自律性についての意識
- 4) 漢字学習の内容と適切だと思う学習方法

1.4 ロシアの漢字教育の実態

現在、ロシアでは外国語教育の方針として、コミュニケーション教育と書き言葉や正確な文型を重視する教育が両立できるような教授法が行われており、漢字教育も実施されている。筆者は学習者を対象にアンケート調査を行ったが、ロシアの高等教育機関における漢字教育の実態について、同じ時期にロシア人日本語教師（以降、教師と記述）を対象にインタビュー調査も実施した。その結果について、ブシマキナ（2013a）では、以下のことを指摘している。

- 1) 授業では会話や読み物に出てきた漢字語彙に

ついて、音読み、訓読み、意味がそれぞれ取り上げられる。また、初級の段階では、授業中15-20分程度が漢字学習に当てられるが、これも漢字の導入などではなく、学習者が予習してきた内容の確認が行われることが多い。このように、学習者には、授業の時間の不足もあり、自習が求められている。しかし、単なる自習ではなく、学習者が自分から進んで漢字を学習すること、自分に合った方法を模索することなどが期待されており、自律学習⁵⁾の必要性が重視されている。

- 2) ニーズに合うロシアで出版されている漢字教材が不足していることが分かった。自律学習を支えるものとしても重視されるべき漢字学習教材は実際に不足している。
- 3) 教師は、「正しい辞書の使い方」というキーワードを使用していた。辞書使用は、専門知識や能力に大いに関わっているのに、しっかり身につけさせるべきだが、実際に教えられていないという意見が見られた。
- 4) 学習者の「恐怖感」についての言及があり、漢字学習へのモチベーションの問題があることが分かった。

II 調査の概要

本研究のための調査として、ロシア人日本語学習者を対象にアンケート調査を行った。以下に詳細を述べる。

2.1 調査対象者のプロフィール

2010年9月から10月まで、ロシアの極東地域に在るウラジオストック市とハバロフスク市における4つの高等教育機関にて主専攻として日本語を学んでいるロシア人学習者（2年生から5年生まで）、合計128名を対象にアンケート調査を実施した。以下、表1に調査対象者のプロフィールを示した。

調査対象者全員は日本語を母語としない、ロシア語母語話者であった。

表1 調査対象者のプロフィール

平均年齢	性別	教育機関	学年
20歳	男性 34名 女性 94名	極東国立大学	2年生 24名
		57名	3年生 43名
		太平洋工科大学	4年生 58名
		9名	5年生 3名
		ウラジオストック 経済サービス大学	
		23名	
		極東国立人文大学	
		39名	

2.2 アンケートの内容

上に示した学習者を対象に、質問紙によるアンケート調査を実施した。内容は、「あなた自身について」と「あなたの漢字学習についてのビリーフ」からなっている。アンケートの説明文及び質問項目は日本語で作成した後、ロシア語に翻訳した。調査の実施に際しては、ロシア語版を使用した。

学習者のビリーフについての質問項目作成時には、Horwitz (1987) のBALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) を参照した。

本調査に用いたアンケートを作成した際、1) 漢字学習の難易度についてのビリーフ、2) 漢字学習への適性についてのビリーフ、3) 漢字学習の性質についてのビリーフ、4) 漢字学習への動機と期待についてのビリーフ、5) 指導者の役割と学習者の自律性についてのビリーフ、という5つのテーマを設定し、各テーマ内に複数の質問項目を設けた。回答者には、合わせて45項目の選択式質問項目について、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらでもない」、「ややあてはまらない」、「あて

はまらない」の5段階で評定してもらった⁶⁾。さらにアンケートの最後に、「コメントやこれから漢字の学習を始める人にアドバイスがあったら、書いてください」という項目を設け、自由記述形式で答えてもらった。

III 調査結果：学習者のビリーフの全体的な特徴

本節では、調査の結果について、上に示したビリーフのカテゴリーごとに調査結果の単純集計と分析を行い、学習者の漢字学習についてのビリーフを探る。さらに、自由記述に記されたコメントについてもまとめて報告する。

3.1 漢字学習の難易度についてのビリーフ

このカテゴリーのビリーフについての平均値と標準偏差を表2にまとめた。

回答は5段階評定で、1「あてはまらない」から5「あてはまる」までであり、満点は5点である。

表2の結果は、学習者の漢字学習の難易度についての意識を示した。

漢字学習全体の難易度について、学習者は、B4⁷⁾「漢字は簡単だ」とB2「漢字の習得はやさしい」のビリーフに否定的な回答をしていることから(平均値はB4では1.92, B2では2.02)、漢字の学習自体を難しいと感じていることが分かる。一方、漢字の書き及び意味の理解といった各学習内容が難しいという考え方(B6, B11, B25)に否定的であった(平均値はB6では2.27, B11では

表2 漢字学習の難易度についてのビリーフ

#	質問項目	平均	標準偏差
B4	漢字は簡単だ。	1.92	0.92
B2	漢字の習得はやさしい。	2.02	1.06
B6	漢字の書きが難しい。	2.27	1.29
B11	漢字の意味の理解が難しい。	2.42	1.14
B25	漢字の読みより書きのほうが難しい。	2.47	1.31
B26	漢字、漢字語彙の使い分けが難しい。	3.16	1.30
B27	漢字は、読みも、書きも、意味もすべて難しい。	3.17	1.36
B7	漢字の読みが難しい。	3.37	1.29

表3 漢字学習適性についてのピリーフ

#	質問項目	平均	標準偏差
B31	会話が得意な人は漢字も得意だ。	2.21	1.11
B3	ロシア人は漢字を学ぶのが上手だ。	2.54	0.98
B1	絵や図を描くのが上手な人は漢字が得意だ。	2.70	1.37
B10	いろいろな物事をカテゴリー化して捉えることが得意な人は漢字が得意だ。	3.38	0.88
B8	漢字は、非漢字圏より漢字圏の人のほうが習得しやすい。	4.18	1.13
B19	工夫が得意な人は漢字が得意だ。	4.37	0.85
B24	漢字は記憶力が必要だ。	4.40	0.81
B20	誰でも学習すれば、漢字が得意になれる。	4.41	0.96

2.42, B25では2.47)。

3.2 漢字学習への適性についてのピリーフ

このカテゴリーのピリーフについての平均値及び標準偏差を表3にまとめた。

回答は5段階評定で、1「あてはまらない」から5「あてはまる」までであり、満点は5点である。

表3の結果は、学習者の漢字学習への適性についての意識を示した。

漢字は、非漢字圏より漢字圏の人のほうが習得しやすい(B8)という考え方に肯定的で(平均値は4.18)、ロシア人は漢字学習が得意ではないと思っている(B3「ロシア人は漢字を学ぶのが上手だ」の平均値は2.54)。

会話や絵を描く能力によって漢字学習への適性が異なるという考え方には否定的で(B31では2.21, B1では2.70)、誰でもが漢字が得意になれるという考え方に肯定的であった(B20, 平均値

4.41)。記憶力(B24)と工夫をする能力(B19)を高く評価している学習者が多かった(B24の平均値は4.40, B19の平均値は4.37)。

3.3 漢字学習の性質についてのピリーフ

このカテゴリーのピリーフについての平均値及び標準偏差を表4にまとめた。

回答は5段階評定で、1「あてはまらない」から5「あてはまる」までであり、満点は5点である。

表4の結果は、学習者の漢字学習の性質についての意識を示した。

漢字の上達が日本語力全体の上達に結びつくという考え方(B9)が強かった(平均値は4.20)。漢字学習には反復練習が必要不可欠であり(B18)、また時間がかかる(B12)という考え方に肯定的であった(平均値は、B18では4.67, B12では4.72)。

漢字の読み(B5)、書き(32)、意味(29)、漢字の使い方の規則性(B28, 30)、字源の理解(B17)

表4 漢字学習の性質についてのピリーフ

#	質問項目	平均	標準偏差
B33	すべての漢字が読める必要はない。	2.70	1.24
B5	漢字の学習で最も重要なのは、漢字の読みを覚えることである。	2.98	1.27
B32	すべての漢字が書ける必要はない。	3.02	1.31
B30	漢字の学習で最も重要なのは、漢字の使用の規則を理解することである。	3.10	1.16
B16	漢字を習うときは、日本語母語者に習うのが一番良い。	3.41	1.33
B17	漢字の起源の理解が必要だ。	3.42	1.32
B28	漢字の使い方の規則性が分かったら、習得しやすくなる。	3.45	1.02
B29	漢字の学習で最も重要なのは、漢字の意味を覚えることである。	3.49	1.19
B9	漢字が上手にならないと日本語が上達しない。	4.20	1.13
B18	漢字学習には反復練習が欠かせない。	4.67	0.64
B12	漢字学習は時間がかかる。	4.72	0.67

表5 漢字学習の動機と期待

#	質問項目	平均	標準偏差
B34	日本語能力試験1級を取るために、漢字を勉強する。	2.88	1.47
B35	日本語のウェブ・ページが読めるようになりたいから、漢字を勉強したい。	3.30	1.37
B37	専門書が読めるようになりたいから漢字を勉強したい（勉強している）。	3.31	1.37
B36	漢字が得意な人は良い仕事のチャンスがある。	3.66	1.17
B14	日本語の新聞や本が読めるようになりたいから、漢字を勉強している。	3.91	1.23
B38	漢字の読み書きが上手になりたい。	4.23	1.02
B39	日本での日常生活の中で必要な日本語の看板やお知らせが読めるようになりたい。	4.23	1.09

といった各学習内容の重要性について、はっきりした傾向は見られなかった（平均値は、B5では2.98, B32では3.02, B30では3.10）。

3.4 漢字学習への動機と期待についてのピリーフ

このカテゴリーのピリーフについての平均値および標準偏差を表5にまとめた。

回答は5段階評定で、1「あてはまらない」から5「あてはまる」までであり、満点は5点である。

表5の結果は、学習者の漢字学習への動機と期待についての意識を示した。

B38「漢字の読み書きが上手になりたい」という項目の平均値は4.23で、学習者はこの考え方に賛成しているという結果が得られた。

道具的動機（実用的な手段としての漢字学習）について、B39「日本での日常生活の中で必要な日本語の看板やお知らせが読めるようになりたい」というピリーフが多かった（平均値は4.23）。ま

た、B14「日本語の新聞や本が読めるようになりたい」という目的はやや多かった（平均値は3.91）が、日本語のウェブ・ページや専門書（B37, B35）を読むという目的については、全体的にはっきりした傾向が見られなかった（平均値はB37では3.31, B35では3.30）。

3.5 指導者の役割と学習者の自律性についてのピリーフ

このカテゴリーのピリーフについての平均値及び標準偏差を表6にまとめた。

回答は5段階評定で、1「あてはまらない」から5「あてはまる」までであり、満点は5点である。

表6の結果は、指導者の役割と学習者の自律性についての意識を示した。

漢字学習と自習の関係について、全体的に、B13「漢字の授業に出たほうがいい」という考え方に肯定的であった（平均値は3.96）が、B21「授

表6 指導者の役割と学習者の自律性

#	質問項目	平均	標準偏差
B45	漢字学習で進歩がないのは、教師の教え方に責任がある。	1.48	0.79
B15	指導者がいないと、漢字の学習はできない。	2.48	1.28
B40	漢字の教科書がないと学習ができない。	2.54	1.29
B23	最も効果的な漢字学習方法は指導者がよく知っている。	2.84	1.22
B43	たとえ自分のやり方とは違っていても教員のアドバイスを従う。	2.87	1.23
B44	自分で学習内容を決めるのは、効果的ではない。	2.89	1.10
B42	漢字授業では学習者が全員同じ活動をしたほうが良い。	3.20	1.08
B22	自分で漢字学習方法や進度を決めるのが一番効果的である。	3.88	1.07
B13	漢字学習は漢字の授業に出たほうがいい。	3.96	1.28
B41	学習者同士で漢字の学習方法を相談するとよい。	4.10	1.03
B21	授業以外でも漢字の自習が必要だ。	4.79	0.61

業以外でも漢字の自習が必要だ」という項目の平均値が高く(4.79), 学習者が自習学習の必要性を意識していることが分かった。また, 漢字学習方法について学習者同士で相談すること(B41)が高く評価されており(平均値は4.10), 自分で漢字学習方法や進度を決めるのが効果的であるかについて(B22, B44), やや肯定的であった。さらに漢字学習の際の指導者の役割についてのピリーフについては, B15「指導者がいないと漢字学習ができない」, B45「漢字学習で進歩がないのは, 教師の教え方に責任がある」には否定的(平均値はB15では2.48, B45では1.48)であったが, 効果的な学習方法などは学習者自身が決め, 教師のアドバイスを絶対視している訳ではないようである(B23, B43)。

3.6 ピリーフの評定の結果のまとめ

以上, 5つのカテゴリーごとに学習者の漢字学習についての考え方の全体的な傾向を述べた。

ピリーフの評定の結果をまとめると, 以下1)~5)のようになる。

- 1) 学習者は, 漢字の学習自体を難しいと感じている。ただし, 漢字の書きや意味の理解といった具体的な漢字学習内容が難しいというピリーフには否定的であった。
- 2) 出身地による漢字学習への適正についてのピリーフでは, 漢字は, 非漢字圏より漢字圏の学習者のほうが習得しやすいという考え方が見られ, ロシア人は漢字学習が得意ではないと思っている。しかし一方で, 会話や絵を描く能力など, 何らかの特徴によって漢字学習への適性が異なるという考え方には否定的で, 誰でもが漢字が得意になれると思っている。そして漢字学習が得意になるための要因として, 記憶力と工夫をする能力を選ぶ学習者が多かった。
- 3) 漢字の上達が日本語力全体の上達に結びつくという考え方が強く, 漢字学習には反復練習が必要不可欠であり, 時間がかかるという意識が見られた。漢字の読み, 書き, 意味, 漢字の使い方の規則性, 字源の理解といった各学習内容

の重要性について, はっきりした傾向はあまりなく, 漢字学習における読みを覚えることの重要性はやや低く, 漢字の意味を覚えることの重要性はやや高いという意識がみられた。

- 4) 全体的に「漢字の読み書きが上手になりたい」という希望を持っている学習者が多いことが分かった。実用的な手段としての漢字学習について, 「日本での日常生活の中で必要な日本語の看板やお知らせが読めるようになりたい」と「日本語の新聞や本が読めるようになりたい」という目的が多かったが, それ以外の目的に関して全体的にはっきりした傾向が見られなかった。
- 5) 漢字学習と自習の関係について, 全体的に, 「漢字の授業に出たほうがいい」という考え方に肯定的であったが, 「授業以外でも漢字の自習が必要だ」という項目の平均値が高く, 学習者が自習学習の必要性を意識していることが分かった。また, 漢字学習方法について学習者同士で相談することが評価されており, 自分で漢字学習方法や進度を決めるのが効果的であるかについてやや肯定的であった。さらに指導者の役割に関して, 指導者の必要性を感じない, 不成功の際の指導者には責任がない, 効果的な学習方法などは学習者自身が決め, 教師のアドバイスを絶対視しないという考え方が見られた。

3.7 漢字学習ストラテジーについてのピリーフ (自由記述の結果)

ここで, アンケートの最後に設けた, 「コメントやこれから漢字の学習を始める人にアドバイスがあったら, 書いてください」という質問項目に対する自由記述の結果をまとめる。

128人中51人がコメントを書いた。コメントは, ロシア語であったが, 筆者はそれらを日本語に訳し, 全てのコメントを漢字学習ストラテジーという観点から分析した。以下, 学習者の具体的な記述を引用し, その結果を述べる。

まず, 効果的な漢字学習方法として, 日本語をたくさん読む, 反復練習, 声を出して漢字の書き

方をよく練習する, 知らない漢字があったら辞書などで調べ, メモをするなどの直接ストラテジー⁸⁾について言及した記述が見られた(例1~例5)。

例1) 日本語の読み物をたくさん読むといい。何でもいから, とにかく日本語を読んでください。そうすれば, 前に習った漢字の復習にもなるし, 初めて見た漢字の意味や読みを推測することがとてもいい漢字練習になると思う。

例2) 漢字は何回も繰り返して覚えるものである。

例3) 練習のため新しく習った漢字を何回も書くが, その際, 声を出して, その漢字の読み方を言いながら書くとよく覚えられる。

例4) 知らない漢字があったら, 必ず辞書などで調べてください。調べたら, 教科書や授業のための資料などに書かないで, きちんと自分のノートにメモを書いておくとよい。

つぎに, 定期的に復習する, 毎日漢字を少しづつ覚える, 自分に合った学習方法を見つけるといった間接ストラテジー⁸⁾を意識した記述が多かった(例5~例8)。

例5) 漢字の学習は定期的に練習することがとても大事だ。30分程度でもいいから毎日の練習を続けると効果があると思う。

例6) 毎日新しい, 漢字の数を決めて, 例えば, 10時ずつ勉強するといいたろう。

例7) 漢字の学習は, 自分に合った学習方法を見つけると, また, その前に自分の学習スタイル(耳型か目型かなど)を知っておくといい。

また, 漢字学習には記憶力や想像力が必要であるという考え方がみられ, 記憶ストラテジーについての言及が多かった(例9~例11)。

例8) 漢字学習は記憶力が必要なので, 記憶力をトレーニングすることも勧める。

例9) みんなよく知っている「漢字ストーリー」は, 本当に効果がある。ストーリーを考え

る時, 部首の知識が必要で, 一つ一つのストーリーを考えるのが大変だけど, 慣れてきたら楽しくなる。記憶力を伸ばす方法として, このストーリーがいいと思う。

例10) 想像力を使って, 色々な工夫すると漢字の勉強が面白くなるし, よく覚える。

IV 考察

4.1 漢字学習と日本語力の上達

以上述べた漢字学習の難易度, 適性, 動機と期待についての結果から, 漢字は難しいし, ロシア人は漢字を学ぶのが得意ではないが, 漢字の上達が日本語力全体の上達に結びつくとする漢字学習観が見てとれる。

この漢字学習観の原因は, 日本語を学習する際の文字のとらえ方, 学習者の日本語学習観全体にある可能性がある。日本語の表記法に対するロシア人学習者の態度を調べた稲垣(1995)は, ロシア人学習者の書き言葉使用の多さに注目し, 日本語表記に対する態度と文章理解力の関係を考察した。それによると, 「漢字に対しての抵抗感」が少なく, どんな日本語表記が理想かという問いに対して, 「漢字仮名交じりの表記が一番いい」という意見が多かったと報告している。そして稲垣はこのようなロシア人学習者の漢字に対する考え方の背景には, ロシア語話者の「言葉に対する規範意識の強さ」があると指摘している。漢字を使用するという事は日本語の規則としてとらえており, 漢字仮名交じりの表記が理想的であると学習者が信じている。筆者の今回の調査は, 表記法に対する意識とは別の「漢字学習」という問題に着目しているが, 日本語学習には漢字が避けられない課題であるという学習者の意識があることは稲垣(1995)と同様の結果である。

本調査では, 漢字力は日本語力全体につながるという考え方があった一方, 漢字学習への具体的な動機や学習者のニーズについては把握できなかった。日本での生活の中で必要な道具としての漢字は重視されているが, それ以外の動機

(日本語の専門書やインターネットを読むことなど)についての考え方は学習者によって異なる、あるいは、学習者は「漢字ができればどんなことができるようになるか」といった、漢字学習の具体的な目標を持っていないという理由が考えられる。それは、学習者が日本で日本語を学ぶのと違い、学習環境に漢字が存在しない状態で学ぶことの限界であるのかもしれないが、授業や教材の中での工夫の必要性を示唆する結果でもあるかもしれない。

4.2 適切な漢字学習方法

漢字学習の性質についてのピリーフでは、学習者の多くが記憶力と反復練習を必要なものと評価していたが、この結果は以前からある一般的に広く使われている漢字学習方法を反映していると考えられる。新しい漢字学習方法を提案する際に、やはり記憶と反復に対する学習者のピリーフを考慮に入れるべきであろう。

一方、言語学習には記憶力が不可欠であるが、記憶力だけに頼る学習方法は学習者の負担を大きくし、学習への動機づけの阻害要因にもなると考えられる。ブシマキナ (2013) が記述するロシアの大学で実施されている学習者側の記憶力と努力に頼る漢字学習方法は、漢字に対する苦手意識の原因になることも考えられる。

4.3 学習者の自律性

木谷 (1998) はロシアの極東地域の学習者の言語学習観を調べた結果、ロシア人学生は教師依存的であり自律性が必ずしも高くないことなどの特徴を指摘している。一方、本調査では、指導者の役割と学習者の自律性に関するピリーフの評定の結果から、学習者は漢字の授業の重要性も認識しつつ、漢字学習には自律性が重要だとする考え方が浮かび上がる。漢字学習に成功するか否かは、学習者の努力に左右され、教師に頼るより、学習者自身が一所懸命に勉強することが必要だという意識が強いようである。

このような考え方には、14で述べたロシアの漢

字教育の問題が影響していることが考えられる。たとえば、漢字学習に当てられる時間や教師側の努力に限りがあることや、漢字学習教材が不十分であることなどである。

V. おわりに

以上の考察では、漢字を学習する際のロシア人学習者の意識を見てきた。本稿ではピリーフ調査の結果の記述が中心となったが、同様の調査をロシア人日本語教師にも行っており (ブシマキナ 2013a)、今後は、その結果との比較・分析などを進める予定である。

以上のことから、ロシア人学習者の漢字学習への関心が深い一方で、その上達は学習者の努力にゆだねられると考えられている傾向が明らかになった。効果的な漢字学習方法を考える際、学習者側の努力だけに頼る方法ではなく、短時間だからこそ効率よく学習を継続できるような教材や学習方法を考えたい。

謝辞

本調査に協力してくださったウラジオストク経済サービス大学、極東国立大学、極東国立人文大学、太平洋大学の日本語教師と学生のみなさんに謝意を表します。

付記

本稿は、2011年度の日本語教育学会北陸地区研究集会にて発表したブシマキナ (2011) に加筆・修正したものである。

注

- 1) 非漢字圏日本語学習者とは、母語に漢字を持たない言語圏出身の学習者である。
- 2) 非漢字圏の学習者にとっての漢字学習上の問題

- に関して、海保&野村(1983)、トリーニ(1992)などが詳しく考察している。
- 3) 実態調査として、ロシア人日本語教師(計7名)を対象にインタビューを実施した。その結果、ブシマキナ(2013a)では報告と考察している。
 - 4) 韓国人日本語学習やベトナム人日本語学習者は、いわゆる漢字文化圏の学習者を対象としたピリーフ研究を本稿では扱わない。
 - 5) 「自律学習」の定義は、青木(2005)「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実施し、結果を評価すること」に従う。
 - 6) アンケートの具体的な内容に関して、資料Iを参照。
 - 7) 以下、アンケートの45項目のピリーフを「B1」(ピリーフ1, Belief 1)のように記した。
 - 8) 直接ストラテジー(Direct Strategies): 言語を習得するための技術的な方法。記憶ストラテジー、認知ストラテジー、補償ストラテジーの3つに分類される。

【参考文献】

1. 青木直子(2005)「自律学習」日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』pp.773-775, 大修館書店
2. 池田康子(2007)「非漢字圏学習者の漢字観に関する事例研究」『茨城大学留学生センター紀要』第5号, pp.31-40
3. 石田敏子(1984)「国際化のなかで漢字とは」海保博之編『漢字を科学する』pp.155-190
4. 稲垣滋子(1995)「日本語の表記法に対する態度と文章理解力—ロシア語圏での調査から—」『ICU日本語教育40周年記念論集』pp.299-322
5. 大北葉子(1995)「漢字学習ストラテジーと学生の漢字に対する信念」『世界の日本語教育』第5号, pp.105-124
6. 大北葉子(1998)「初級教科書の漢字学習ストラテジー使用及び漢字学習信念に与える影響」『世界の日本語教育』第8号, pp.31-45
7. 海保博之, 野村幸正(1983)『漢字情報処理の心理学』教育出版
8. 加納千恵子(1997a)「初中級学習者に対する漢字指導の一試案—補講漢字クラスにおける授業報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第12号, pp.139-153
9. 加納千恵子(1997b)「非漢字圏学習者の漢字力と学習過程」『日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念』pp.257-268
10. ガヤトゥリ・ハットトワ・ガマゲ(2006)「非漢字圏日本語学習者の漢字学習意識に関する研究—スリランカの学習者を対象として—」『日本語科学』第20号, pp.67-78
11. 川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』ひつじ書房
12. 木谷直之(1998)「極東ロシアの大学生の言語学習観について—海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考える—」『日本語国際センター紀要』第8号, pp.95-110
13. 新矢麻紀子(1998)「学習者の情意的側面と入門期の漢字教育」『平成10年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.153-158
14. 豊田悦子(1995)「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』第85号, pp.101-113
15. トリーニ・アルド(1992)「非漢字系学習者のための入門期における漢字学習指導の一考察」『世界の日本語教育』第2号, pp.65-76
16. ブシマキナ・アナスタシア(2011)「ロシアの高等教育機関における漢字教育の現状とロシア人学生の漢字学習に対する意識—ピリーフ調査の結果から—」2011(平成23年度)第4回日本語教育学会研究集会(福井県・福井大学)発表要旨
<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/kenkyushukai/2011/kk-11-04yoshi.pdf>
17. ブシマキナ・アナスタシア(2013a)「ロシア人日本語教師にとっての漢字指導と問題点—ロシア人日本語教師を対象としたインタビューを中心に—」『人間社会研究』第25号 pp.55-65
18. ブシマキナ・アナスタシア(2013b)「JSL日本語学習者の漢字学習に対する意識—JSL日本語学習者へのアンケート調査を通じて—」『留学生センター紀要』第16号 pp.45-62
19. マシニナ(ブシマキナ)・アナスタシア(2009)「ロシアの高等教育機関における日本語教育—極東国立人文大学における日本語教育の実情と問題点—」『外国語教育フォーラム(金沢大学外国語教育センター紀要)』第3号, pp.64-74
20. 柳田しのぶ(2011)「非漢字圏日本語学習者における漢字学習への意識—フランスの大学生を対象に—」『JSL漢字学習研究会誌』第3号, pp.8-13

21. リドワン・ルッシー・ノワリダ (2011) 「インドネシアの大学における初級日本語学習者の漢字意識調査」『JSL漢字学習研究会誌』第3号, pp.1-7
22. B, Bourke & Anderson, S. 1998. Development of a Strategy Inventory for Learning Kanji (SILK) and its implementation in the Japanese language classroom. *Handout, Applied Linguistics Association of Australia 23rd Annual Congress. 30 June-3 July.*
23. Horwitz, Elaine K. 1985 Using Students Beliefs about Language Learning and Teaching in the Foreign Language Method Course. *Foreign Language Annals* 18: 4 pp. 333-340.
24. Horwitz, Elaine K. 1987 Surveying Student Beliefs about Language Learning. in Wenden, A. & Rubin, J. *Learners Strategies in Language Learning.* pp.119-129. London: Prentice-Hall.
25. Mori, Y., Sato, K., & Shimizu, H. 2007 Japanese Language Students' Perception on Kanji Learning and Their Relationship to Novel Kanji World Learning Ability. *Language Learning* 57, pp. 57-85, University of Michigan.
26. Tudor, I. 1996 Learner-centeredness as Language Education. Cambridge University Press.
27. Ventura Francesca (2007) 「特定課題研究報告 フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するピリーフとストラテジー使用—漢字教育の改善のために—」『日本言語文化研究会論集』第3号, pp.141-168

資料 I

学習についてのアンケート調査

あなたの漢字学習についてのピリーフ

次の質問に対してあなたの考えにあてはまるかあてはまらないか、次の1~5の中から一つ選んでください。

1-あてはまらない, 2-ややあてはまらない, 3-どちらでもない, 4-ややあてはまる, 5-あてはまる

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1. 絵や図を描くのが上手な人は漢字が得意だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 漢字の習得はやさしい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. ロシア人は漢字を学ぶのが上手だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 漢字は簡単だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 漢字の学習で最も重要なのは、漢字の読みを覚えることである。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 漢字の書きが難しい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 漢字の読みが難しい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 漢字は、非漢字圏より漢字圏の人のほうが習得しやすい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 漢字が上手にならないと日本語が上達しない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. いろいろな物事をカテゴリー化して捉えることが得意な人は漢字が得意だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 漢字の意味の理解が難しい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 漢字学習は時間がかかる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 漢字学習は漢字の授業に出たほうがいい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 日本語の新聞や本が読めるようになりたいから、漢字を勉強している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 教師がいないと、漢字の学習はできない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 漢字を習うときは、日本語母語者に習うのが一番良い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 漢字の起源（成り立ち）の理解が必要だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 漢字学習には反復練習が欠かせない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

19. 学習の工夫が得意な人は漢字が得意だ。 1 2 3 4 5
20. 努力すれば、誰でも漢字が得意になれる。 1 2 3 4 5
21. 授業以外でも漢字の自習が必要だ。 1 2 3 4 5
22. 自分で漢字学習方法や進度を決めるのが一番効果的である。 1 2 3 4 5
23. 最も効果的な漢字学習方法は教師がよく知っている。 1 2 3 4 5
24. 漢字は記憶力が必要だ。 1 2 3 4 5
25. 漢字の読みより書きのほうが難しい。 1 2 3 4 5
26. 漢字の使い分けが難しい。(「はかる」:「図る」「測る」「計る」) 1 2 3 4 5
27. 漢字は、読みも、書きも、意味の理解もすべて難しい。 1 2 3 4 5
28. 漢字の使い方の規則性が分かったら、習得しやすくなる。 1 2 3 4 5
29. 漢字の学習で最も重要なのは、漢字の意味を覚えることである。 1 2 3 4 5
30. 漢字の学習で最も重要なのは、漢字の使用の規則を理解することである。 1 2 3 4 5
31. 会話が得意な人は漢字も得意だ。 1 2 3 4 5
32. すべての漢字が書ける必要はない。 1 2 3 4 5
33. すべての漢字が読める必要はない。 1 2 3 4 5
34. 日本語の能力検定試験でいい成績を取るために、漢字を勉強する。 1 2 3 4 5
35. 日本語のウェブ・ページが読めるようになりたいから、漢字を勉強したい。 1 2 3 4 5
36. 漢字が得意な人は良い仕事のチャンスがある。 1 2 3 4 5
37. 専門書が読めるようになりたいから漢字を勉強したい。 1 2 3 4 5
38. 漢字の読み書きが上手になりたい。 1 2 3 4 5
39. 日本での日常生活の中で必要な日本語の看板やお知らせが読めるようになりたいから漢字を勉強している。 1 2 3 4 5
40. 漢字の教科書がないと学習ができない。 1 2 3 4 5
41. 学習者同士で漢字の学習方法を相談するとよい。 1 2 3 4 5
42. 漢字授業では学習者が全員同じ活動をしたほうが良い。 1 2 3 4 5
43. たとえ自分のやり方とは違っていても教員のアドバイスに従う。 1 2 3 4 5
44. 自分で学習内容を決めるのは、効果的ではない。 1 2 3 4 5
45. 漢字学習で進歩がないのは、教師の教え方に責任がある。 1 2 3 4 5
46. コメントやこれから漢字の学習を始める人にアドバイスがあったら、書いてください。